

単元名

天気予報で自然の災害を防げる？！

単元目標

気象庁の予報官の仕事や天気予報に込める思いや願いについて考えることを通して、自然災害を防ぐために天気予報が使えることを理解し、自分達の住む地域の天気予報を使って自然災害に備える準備や行動ができるようにする。

フローチャート

(全20時間)

※○数字=時間数

1. 天気予報がなかったら、どんな生活になるか想像し、天気予報が存在する意味を考える。

2

遊びや行事の計画を立てる時に天気が分からないと、予定が立てられずに困るね。

この前みたいに大雪が降る時、予報がなかったら家に帰れないかもしれない。

昔は雲の様子や動きで予想していたのが、天気のことわざでわかるよ。

2. 天気予報は何のためにあるのか、「学ぼう BOSAI 命を守るチカラ 天気予報で災害を防ぐ・気象台」を視聴したり情報を調べたりして考える。

5

天気図や雲の様子を見たり、雨の状況を調べたりして次の日の天気を予測するんだね。

大雪や台風などの天気予報は、事前に避難したり準備したりするために必要だと思う。

3. 「学ぼう BOSAI 天気予報で災害を防ぐ・気象台」 scene5～10 を再度視聴し、天気予報に込められたメッセージについて話し合う。

3

天気予報はコンピュータで考えているのかと思ったら、たくさんの人が考えを出し合って話し合っていた。

こんなに真剣に考えているのは、雪がその地域に大きな被害をもたらすかもしれないからなんだ。地域の人の生活を真剣に考えているんだね。

4. 大雪や台風・竜巻など被害が予想される天気の出される天気予報と、それに対する自分たちの行動について調べる。

5

先日の大雪の時、天気予報で積雪量を言っていたから家族も気を付けて帰ってきたよ。

台風の時、学校でも集団下校をするよ。天気予報を利用している例だね。

5. 日常生活の中で天気予報を生かす工夫を、保護者や他学年の人に発信する。

5

今までは言われたとおりに行動していたけれど、自分でも考えないといけないと思う。

どんな時に自分で考える必要があるのか、家の人と一緒に考えよう。

本時の目標（第 8 時間目 / 全 20 時間）

番組映像を視聴して天気予報を作る人々の思いに関心を持ち、自分達の今までの行動を振り返り、気象予報士の天気予報に込める思いをどう受け取ればよいのかを考える。

| 主な学習活動 | 指導上の留意点 |
|---|---|
| <p>1. 一度目に視聴した「学ぼう BOSAI 命を守るチカラ 天気予報で災害を防ぐ・気象台」や調べた情報をもとに考えた天気予報について思い出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「テレビの天気予報は、気象庁が作っていた。」 ・「話し合いながら天気予報を考えていた。」 ・「天気が災害にも関係あると言っていた。」 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>天気予報を作っている気象予報士は、天気予報にどんな思いを込めているのだろう。</p> </div> | <ul style="list-style-type: none"> ○前回視聴した時の、児童が感想を書いた感想の短冊をもとに話し合いを進めるように掲示物を用意しておく。 ○天気予報は単に天気を知らせるだけではないことに気付けるように、児童の意見を短冊で並べ直したりして整理しながら話し合いを進めていくようにする。 |
| <p>2. 「学ぼう BOSAI 天気予報で災害を防ぐ・気象台」 scene5～10 を視聴し、気象予報士の思いについてわかったことや考えたことをグループごとに話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「天気予報は各地の気象台の情報をもとに慎重に作っていることを知った。」 ・「天気の変化を調べるためのいろいろな機械を使って正しい天気を予報しようとしている。」 ・「コンピュータで観測するだけでなく、実際に空の雲の様子も見て予想しているね。」 ・「気象予報士の福浦さんが、天気予報を災害に備えることに生かすようにと言っていた。どんな意味だろう。」 | <ul style="list-style-type: none"> ○前は気付かなかった細かい部分に目が向くように、VTR を再度視聴する際にはグループごとにノートパソコン等を準備し、繰り返して見たり止めながら見たりできるようにする。 ○わかったことや考えたことは個人で付箋に記入できるよう、色別の付箋紙を用意する。 ○個人で出した付箋をグループで話し合っキーワードにまとめ、発表に備えるよう、助言する。 |
| <p>3. 気象予報士の天気予報に込める思いをどうとらえたか、グループごとに発表して話し合い、次の活動の計画を立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「気象予報士は天気の予想を間違えないように何度も何度も話し合っている。どうしてこんなに話し合うのだろう。」(A: 話し合い) ・「天気予報はそこに住む人が、予報をもとに行動するからだと思う。」(C: 生活との関連) ・「私たちも天気予報をもとに、次の日の服装や行動を決めることがあるよね。」(C: 生活との関連) ・「天気予報が外れると『エー』と思ってしまう。」(B: 予報の正確さ) ・「予報がずっと外れていたらみんなの信用が無くなるから一生懸命話し合いをするのだと思う。」(A: 話し合い) ・「気象予報士は『晴れ』とか『雨』とかの情報だけを伝えたいのかな。」(D: 情報) ・「天気だけでなく、そこに住んでいる人への注意も伝えているよ。」(D: 情報) ・「天気の変化を知っていくことと、災害はどうつながっているのか、まだよくわからないから、もう少し調べてみよう。」(次の活動へ) | <ul style="list-style-type: none"> ○グループで話し合ったキーワードをもとに意見を黒板に整理していくようにする。 ○X チャートを使って板書に整理する。 <p>※予想されるキーワードの視点</p> <ul style="list-style-type: none"> A 予報を出す前に話し合いを繰り返すこと B 天気予報を間違えないようにすること C 自分たちの生活と天気予報との関連 D 天気予報で伝える情報 <ul style="list-style-type: none"> ○話し合いを続ける中で、天気だけでなく災害にも目を向けるように、天気予報に込める気象予報士の思いに気付いた児童の意見を取り上げるようにする。 ○気象予報士の天気予報を実際によく聞いたり調べたりして、どんな思いを伝えようとしているのか、児童が自ら気付けるように助言する。 |